

2018年度 上期決算説明会

2018/11/15

 不二製油グループ本社株式会社

- 1 CEO 清水 洋史
総括 P 3
- 2 CFO 松本 智樹
上期実績、通期予想 P 6
- 3 **中期経営計画進捗** P 21



1.総括

CEO 清水 洋史

Plant-Based Food Solutions

植物原料の持つ無限の力を最大限に引き出し、おいしくお届けすることで、人も地球もより健康になれる世界を実現します。

世界的な人口増加、健康志向の拡大、高齢化への対応といった社会が対面する課題を植物素材を用いた食の力で解決してまいります。

時代の半歩先を読みそれぞれに価値のある答えを創り出す、それが私たちの決意です。

植物性原料による事業



ESG委員会

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう	2 気候をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナースHIPで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

2018年度 上期実績

天災・猛暑等が相次ぎ厳しい事業環境となったが、利益の確保につとめた

- ・ 日本 油脂：収益性を重視した販売戦略を継続し、利益を牽引
- ・ 日本 チョコレート：猛暑により冷菓市場向け数量減少するも、高付加価値品で利益を確保
- ・ 機能性高付加価値製品：生産能力増を実施、販売は堅調に推移

2018年度 通期計画

コアコンピタンスの事業を中心に、計画の利益を達成する

- ・ アジア 製菓・製パン素材：中国の新工場が稼働開始、成長市場の需要を取り込む
- ・ 日本：製菓・製パン素材や大豆たん白食品等、ピークシーズンでの拡販をすすめる

中期経営計画

新規事業は立ち遅れあるも、各事業のグローバル競争力向上で経営目標を達成する

- ・ 中国パン市場でのポジション確立
- ・ 米国新工場での低トランス脂肪酸油脂の拡販による米国市場シェア獲得
- ・ グローバルでのチョコレート事業の事業規模拡大、収益力強化
- ・ 安定化DHA・EPA等の機能性高付加価値製品の展開の実現



2.上期実績、通期予想

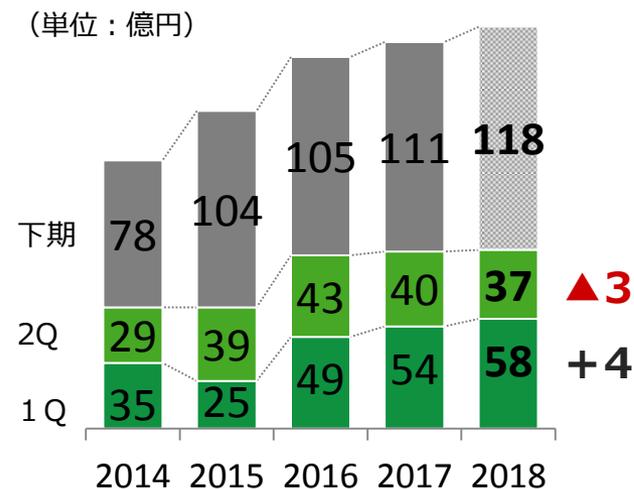
CFO 松本 智樹

上期決算概要

	2017年度 上期実績	2018年度 上期実績	増減額	増減率
売上高	1,496	1,471	▲25	▲1.7%
営業利益	94	95	+1	0.9%
営業利益率	6.3%	6.4%	+0.2pt	-
経常利益	92	95	+3	3.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	58	44	▲14	▲24.4%
EBITDA	139	123	▲16	▲11.6%
ROE ※年換算後数値	7.6%	5.6%	▲2.0pt	-
営業キャッシュフロー	141	120	▲21	▲14.8%
投資キャッシュフロー	▲64	▲115	▲51	▲79.2%
フリーキャッシュフロー	76	5	▲72	▲93.8%
CCC(キャッシュコンバージョンサイクル)	106日	104日	2日短縮	-

営業利益

2Q(3ヶ月)は減益も上期では増益

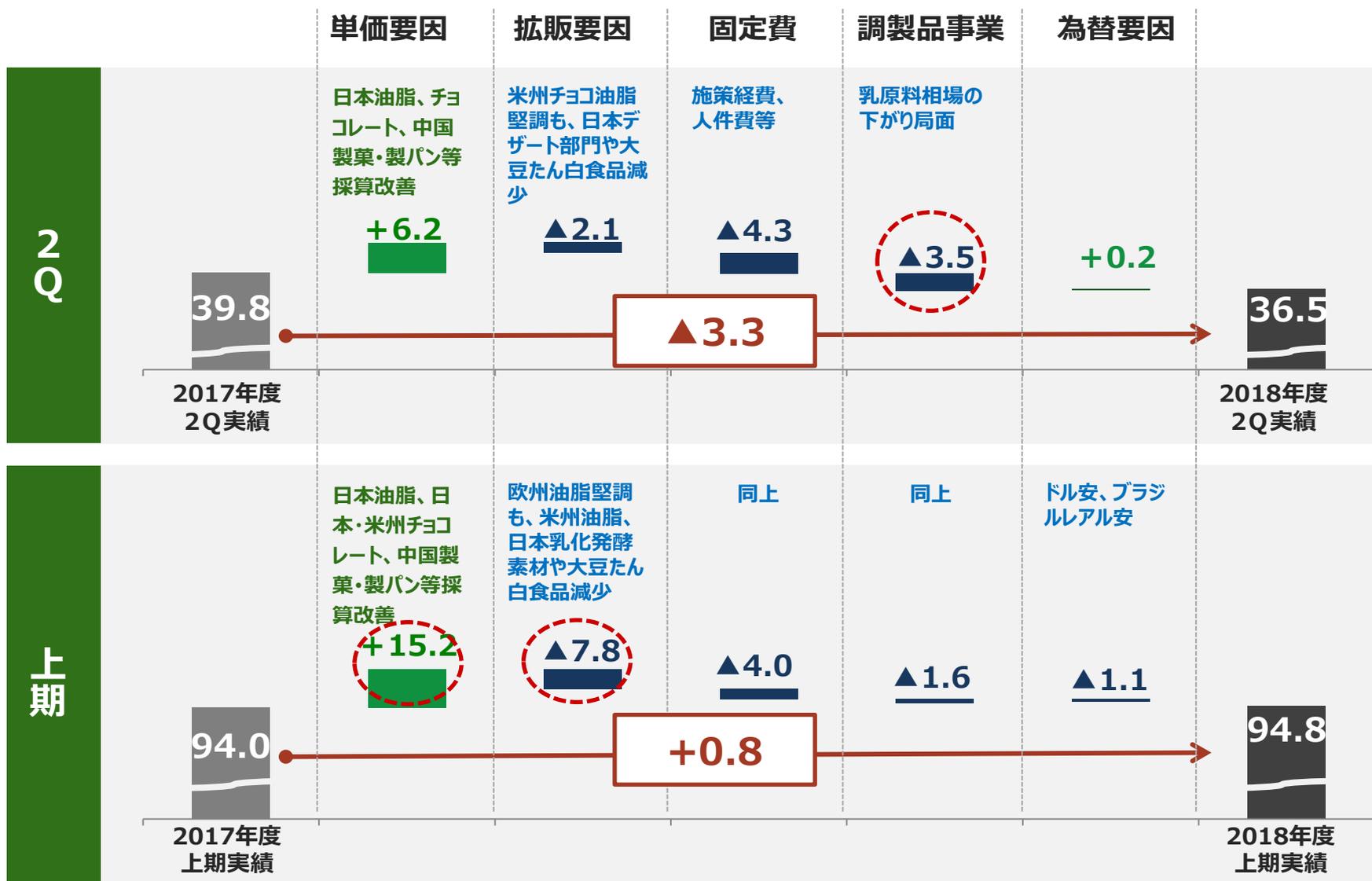


四半期純利益

特別損失▲25億円計上

- ・減損損失 約▲18億円
- ・災害による損失 約▲5億円

営業利益分析 (2Q・上期)



通期修正予想（売上高・営業利益概要）

足元の動向を勘案し通期業績予想を見直し

（単位：億円）

売上高 ▲100億円減額、営業利益は当初予想を据え置き（セグメント間内訳を変更）

		FY2017	FY2018					通期前期比	
		通期	上期実績	下期予想	修正 通期予想	期初 通期予想	修正額	増減額	増減率
売上高	油脂	1,132	545	596	1,141	1,171	▲30	+9	+0.8%
	製菓・製パン素材	1,564	745	863	1,608	1,668	▲60	+44	+2.8%
	大豆	380	181	190	371	381	▲10	▲9	▲2.4%
	合計	3,076	1,471	1,649	3,120	3,220	▲100	+44	+1.4%
営業利益	油脂	73	36	44	79	73	6	+6	+8.1%
	製菓・製パン素材	129	58	75	132	137	▲4	+3	+2.2%
	大豆	35	17	19	36	41	▲5	+1	+2.2%
	連結調整・ グループ管理費用	▲33	▲16	▲19	▲34	▲37	+3	▲1	▲4.0%
	合計	205	95	118	213	213	0	+8	+4.0%
	営業利益率	6.7%	6.4%	7.2%	6.8%	6.6%	+0.2pt	0.1pt	-
経常利益		200	95	112	207	207	0	+7	+3.6%
親会社親会株主に帰属する 当期純利益		137	44	96	140	140	0	+3	+1.9%

参考：通期修正予想 修正額内訳

売上高：▲100億円

営業利益：±0億円



2018年度 通期要点①日本

事業 上期

製菓・製パン素材

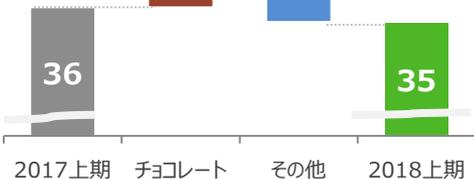
チョコレート

- ・猛暑で販売数量は減少
- ・採算確保に努め利益を確保

その他

- ・デザート事業等販売減少

営業利益増減



- ・天災等対応もあり施策取り組みには遅れ

下期

価格戦略による採算改善

チョコレート

トップシーズンの重点拡販

マーガリン等

施策の取組みを再開

デザート事業

拡販施策実施

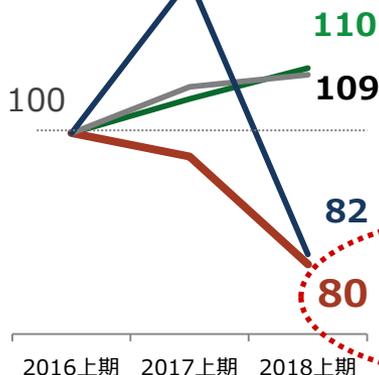
通期見通し

日本：製菓・製パン素材事業 営業利益（億円）



大豆

大豆事業主要製品 上期販売数量



機能剤

水溶性大豆多糖類 販売堅調

大豆たん白素材

USS 商流変更による数量減

大豆たん白食品

修繕工事後の販売立ち遅れ

大豆たん白素材

健康・栄養市場向け堅調

大豆たん白食品

下期のトップシーズン 拡販実施

日本：大豆事業 営業利益（億円）



2018年度 通期要点②アジア

事業 上期

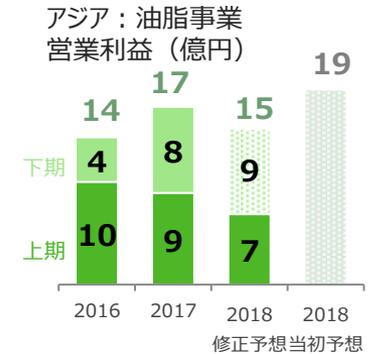
油脂

- ・チョコレート用油脂販売好調
- ・コモディティ品
油脂原料の下落により販売の採算悪化

下期

引き続き、チョコレート用油脂等の拡販を進める
通期予想は見直し

通期見通し



製菓・製パン素材

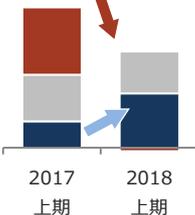
アジア製菓・製パン素材事業営業利益内訳と乳原料相場推移

EUバター
EU全粉

調製品
東南アジア
中国



上期対比



調製品

：乳原料相場の下落局面における減益幅大

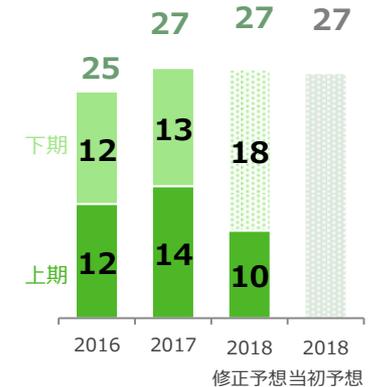
中国

：第一工場の好調続く

乳原料相場の下落による影響は一服

中国新工場稼働、今期中の収益貢献を果たす

アジア：製菓・製パン素材事業 営業利益（億円）



2018年度 通期要点③米州

事業 上期

油脂

- ・1Qの寒波による稼働停止が響くも、足元では計画通りの進捗

下期

- ・チョコレート用油脂、低トランス脂肪酸ともに販売好調

通期見通し

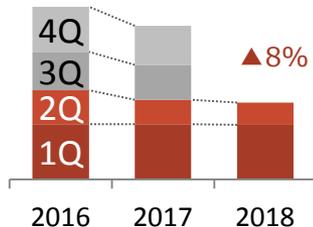
米州：油脂事業
営業利益（億円）



製菓・製パン素材

- ・厳しい景況や競争により販売数量減

ハラルド社チョコレート販売数量



- ・市場環境を勘案した価格戦略により利益は確保

現地通貨ベース
のれん償却・連結調整前
営業利益対前年
125%

- ・為替は足元で反転

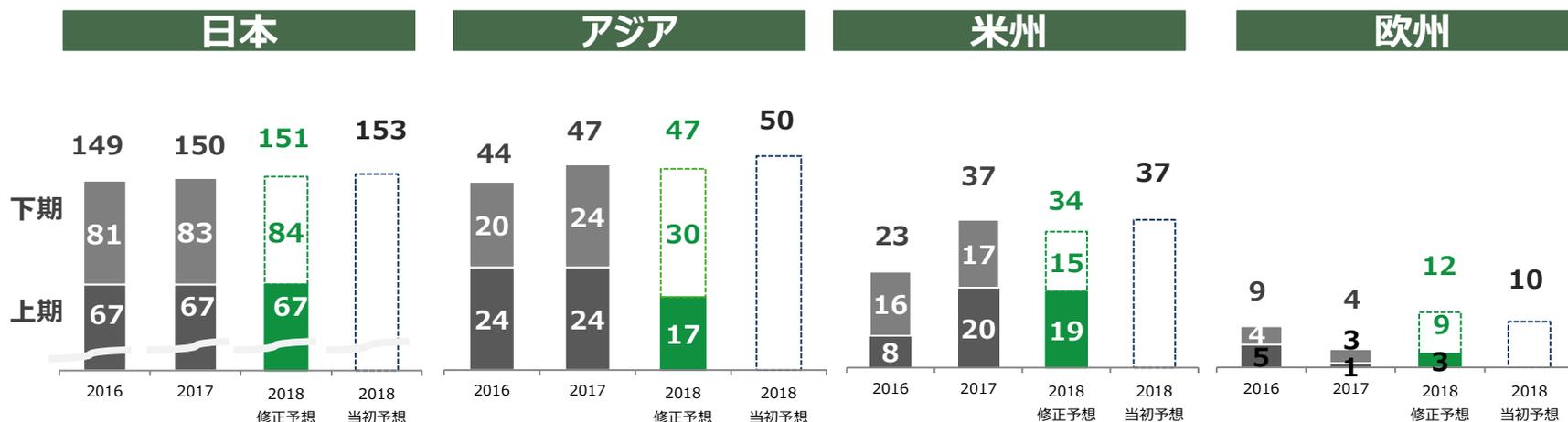


- ・次期イースター商戦に向け年末の需要期に拡販
- ・柔軟な価格戦略を継続

米州：製菓・製パン事業
営業利益（億円）



エリア別 営業利益（上期実績・通期予想）



	【油脂】	【製菓・製パン素材】	【大豆】
上期	採算重視の販売により増	チョコレート採算確保も デザート・乳化発酵素材減	大豆たん白食品減
通期	採算重視の販売を継続	デザート・乳化発酵素材減	上期大豆たん白食品減響く

	【東南アジア】	【中国】
上期	チョコレート用油脂は堅調、 コモディティ品相場影響	パン市場向け販売好調
通期	コモディティ品相場影響残る	新工場費用計上も 売上増でカバー

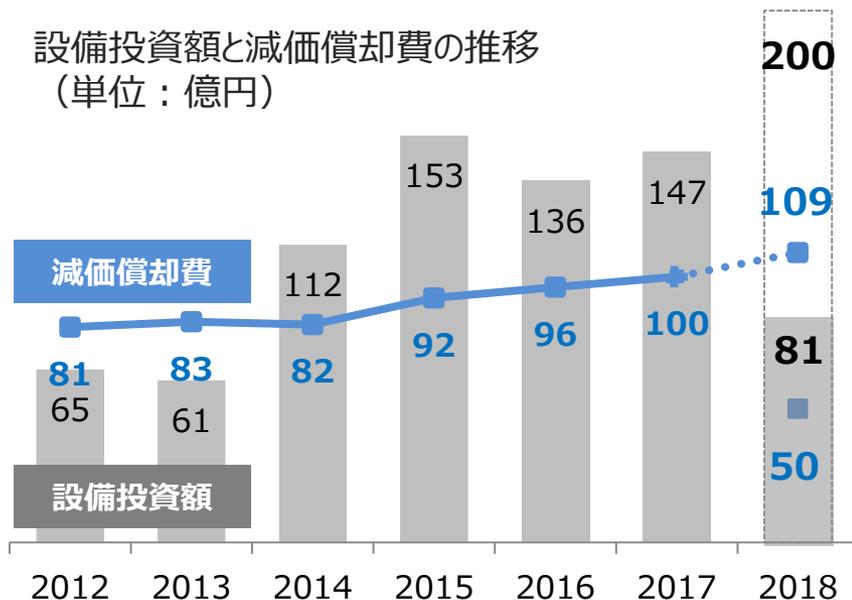
	【米国】	【ブラジル】
上期	1Q寒波による減益も、 足元では想定通りの進捗	レアル安も、価格戦略により 利益を確保
通期	低トランス脂肪酸油脂、 チョコレート用油脂も堅調	為替は改善傾向、 柔軟な価格戦略継続

	【欧州】
上期	原材料採算改善
通期	原材料採算改善に加え、 販売堅調により増益見通し

設備投資

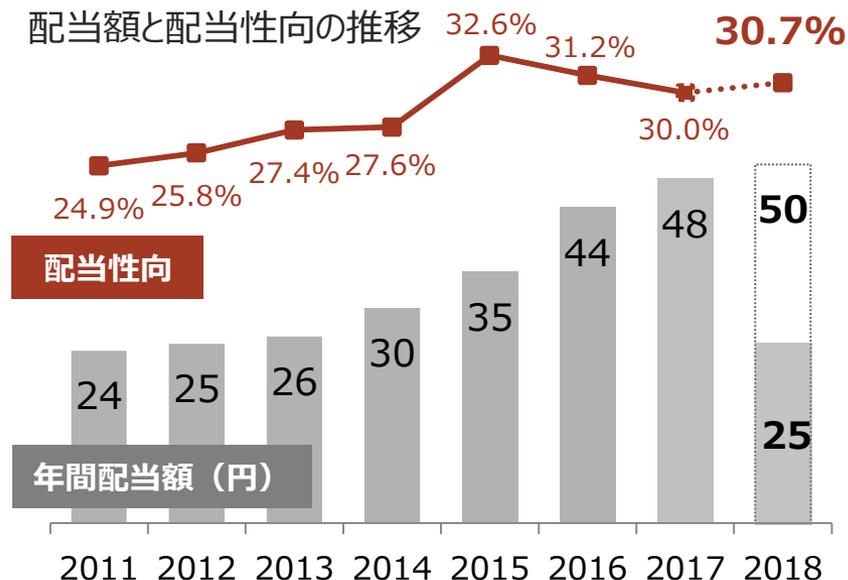
設備投資：成長投資を継続

設備投資額と減価償却費の推移
(単位：億円)



株主還元：安定的かつ継続的な配当を継続

配当額と配当性向の推移



今期配当

上期25円 + 下期25円 = 50円 を予定

上期の主な設備投資と減価償却

設備投資

- ・中国フィリング・マーガリン新拠点
- ・米国油脂 新拠点

減価償却

	上期実績	通期計画
設備投資	81	200
減価償却	50	109

中計財務戦略 進捗

中期経営計画 財務運営方針				2018年上期 進捗	
1	持続的な利益成長	<ul style="list-style-type: none"> ・連結営業利益 CAGR6%以上 ・EPS成長率 CAGR8%以上 ・CCC 10日間の短縮 	キャッシュフローの創出と配分 営業CF4年間 1,000億円創出	営業CF	上期累計 120億円 (対前年同期比▲21億円)
				CCC	2018年上期 104日 (対前年同期比 2日短縮) 在庫削減などによる改善進展
2	財務の健全性堅持	<ul style="list-style-type: none"> ・事業特性、リスクを踏まえ、安定した財務基盤を堅持 	リスク・リターンに見合うBS管理	有利子負債削減	有利子負債 645億円 (前年度末比+79億円)
				D/Eレシオ改善	0.42 (前年度末比+0.07p)
				自己資本比率	58.1% (前年度末比▲0.9p)
3	資本効率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・競合するグローバル企業と並び、永続的な成長に必要な水準へ向上 	ROEの向上 10%	総資本回転率の向上	109.4% (前年同期比▲1.4p)
				不採算事業資産	売却等による検討継続
				設備投資	年内に新基準による運用開始
4	財務ガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化、金融リスク低減、業務効率化を推進 ・グローバルでの比較検証を可能に 	グループ財務標準・基準	グローバルCMS(※1)	運用開始
				基幹システムの統一	米国・中国新工場導入・日本での構築開始
				決算期統一に向けた決算早期化	早期化トライアルフェーズへ移行

【参考】上期 B/S・CF

貸借対照表

(単位：億円)

	17年度 期末	18年度 2Q末	前期末比	主な増減要因
流動資産	1,308	1,268	▲40	売上債権の減少
固定資産	1,399	1,392	▲7	のれんの減少
資産合計	2,707	2,660	▲47	
有利子負債	566	645	+79	短期借入金が増加、CPが増加
その他負債	492	443	▲49	買掛金の減少、未払金の減少
負債合計	1,058	1,088	+30	
純資産合計	1,649	1,573	▲76	資本剰余金の減少、 為替換算調整勘定の減少

キャッシュ・フロー

(単位：億円)

	17年度 2Q	18年度 2Q	前年同期比	主な増減要因
税引調整前四半期純利益	88	70	▲18	
減価償却費	53	55	+2	
他増減	0	▲5	▲5	
営業キャッシュ・フロー	141	120	▲21	
投資キャッシュ・フロー	▲64	▲115	▲51	
フリー・キャッシュ・フロー	76	5	▲72	
借入金等による調達・返済	▲42	85	+127	
配当支払・自己株取得等	▲20	▲76	▲56	
財務キャッシュ・フロー	▲62	8	+71	
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	2	-	▲2	
現金及び現金同等物増減額	11	6	▲5	
現金及び現金同等物残高	139	136	▲4	

(注)・減価償却費には、有形固定資産及び無形固定資産等の償却費を含めています。

【参考】上期決算概要（四半期別営業利益）

（単位：億円）

連結		1Q		2Q		上期実績		
		実績	対前年	実績	対前年	実績	対前年	
日本	油脂	7	4	9	2	17	6	採算重視の販売を継続
	製菓・製パン素材	19	▲ 1	16	▲ 1	35	▲ 2	デザート・乳化発酵食品で減少
	大豆	8	▲ 2	7	▲ 1	15	▲ 4	大豆たん白食品販売減
	連結調整	1	▲ 0	▲ 0	▲ 1	1	▲ 1	
	計	35	1	32	▲ 0	67	0	
アジア	油脂	4	▲ 2	3	▲ 0	7	▲ 2	原料相場下落による販売不振
	製菓・製パン素材	5	▲ 3	4	▲ 2	10	▲ 5	中国好調も調製品の利益減
	大豆	0	0	1	▲ 0	1	0	
	連結調整	0	0	▲ 0	0	▲ 0	0	
	計	9	▲ 4	8	▲ 2	17	▲ 6	
米州	油脂	3	▲ 2	6	▲ 0	9	▲ 3	工場停止影響以外は想定線
	製菓・製パン素材	14	3	▲ 4	▲ 1	10	2	2Qはピークシーズンの期ずれあり
	連結調整	0	0	▲ 0	▲ 0	0	0	
	計	18	1	2	▲ 1	19	▲ 1	
欧州	油脂	1	0	2	1	3	1	採算改善に加え、販売堅調
	連結調整	0	0	0	0	0	0	
	計	1	0	2	1	3	1	
連結調整		4	7	▲ 0	▲ 1	4	6	棚卸未実現利益(調製品)
グループ管理費用		▲ 8	▲ 0	▲ 7	0	▲ 16	0	
合計		58	4	37	▲ 3	95	1	

【参考】通期修正予想：売上高（セグメント別・地域別詳細）

（単位：億円）

	年度	日本		アジア		米州		欧州		連結計	
		実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比
油脂	2018修正予想	366	▲ 7	232	24	313	1	230	▲ 10	1,141	9
	2018期初予想	366	▲ 7	250	42	325	13	230	▲ 10	1,171	39
	2017	373	▲ 14	208	15	312	39	240	31	1,132	71
製菓・ 製パン素材	2018修正予想	1,057	22	341	8	210	14			1,608	44
	2018期初予想	1,082	47	366	33	220	24			1,668	104
	2017	1,035	9	333	63	196	21			1,564	92
大豆	2018修正予想	341	▲ 9	30	▲ 0					371	▲ 9
	2018期初予想	347	▲ 3	34	4					381	1
	2017	350	▲ 11	30	▲ 1					380	▲ 12
売上高計	2018修正予想	1,764	6	603	32	523	15	230	▲ 10	3,120	44
	2018期初予想	1,795	37	650	79	545	37	230	▲ 10	3,220	144
	2017	1,758	▲ 16	571	76	508	60	240	31	3,076	151

【参考】通期修正予想：営業利益（セグメント別・地域別詳細）

（単位：億円）

	年度	日本		アジア		米州		欧州		連結調整		グループ管理費用		連結計	
		実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比	実績	前期比
油脂	2018修正予想	31	▲ 3	15	▲ 2	20	▲ 3	12	8	1	▲ 0			79	6
	2018期初予想	23	▲ 5	19	2	21	▲ 2	10	5	1	0			73	▲ 0
	2017	28	▲ 2	17	3	23	7	4	▲ 4	1	0			73	4
製菓・ 製パン 素材	2018修正予想	87	▲ 0	27	▲ 0	14	▲ 0			4	4			132	3
	2018期初予想	93	5	27	▲ 1	16	2			1	▲ 0			137	7
	2017	88	1	27	3	14	7			1	1			129	11
大豆	2018修正予想	30	▲ 1	5	2					1	0			36	1
	2018期初予想	35	4	4	1					1	0			41	5
	2017	31	3	3	▲ 2					1	▲ 1			35	▲ 1
連結 調整	2018修正予想	2	0							▲ 2	▲ 0			0	0
	2018期初予想	2	▲ 0							▲ 2	0			0	0
	2017	2	▲ 1							▲ 2	1			0	0
グループ 管理 費用	2018修正予想											▲ 34	▲ 1	▲ 34	▲ 1
	2018期初予想											▲ 37	▲ 4	▲ 37	▲ 4
	2017											▲ 33	▲ 7	▲ 33	▲ 7
営業 利益 計	2018修正予想	151	1	47	▲ 0	34	▲ 3	12	8	3	4	▲ 34	▲ 1	213	8
	2018期初予想	153	3	50	3	37	0	10	5	1	1	▲ 37	▲ 4	213	8
	2017	150	1	47	3	37	14	4	▲ 4	▲ 0	1	▲ 33	▲ 7	205	8



3. 中期経営計画進捗

Towards a Further Leap 2020 (2017-2020) ロードマップ^o

基本戦略



経営目標 (2020年度)

ROE	10 %
EPS	CAGR 8% 以上
営業利益成長率	CAGR 6% 以上
株主還元	配当性向 30-40%

キャッシュフロー指標

営業キャッシュフロー	4か年営業CF 累計1,000億円
CCC	10日間の短縮
設備投資	4か年 600-700億円
M&A	500億円の資金を確保

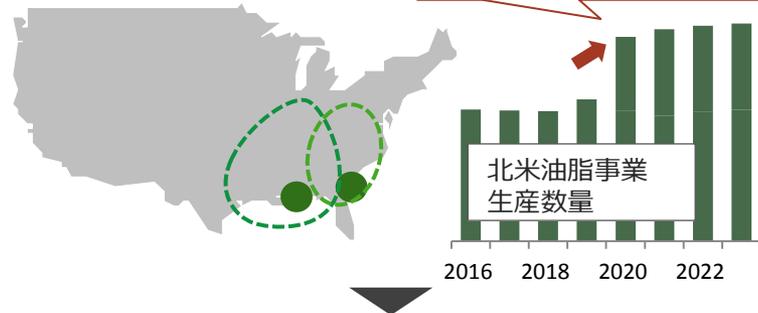
基本方針	2016	2017	2018	2019	2020
コアコンピタンスの強化	マレーシア新拠点	中国第2工場建設 米国需要取り込み ブラジル収益改善	稼動開始 米国第2拠点設立		
大豆事業の成長	[選択] 堺工場閉鎖決定	石川工場売却	日本・中国事業再構築		
	[集中]	高付加価値品拡販		USS収益貢献化	
機能性高付加価値製品群の展開		水溶性大豆多糖類増産	設備増強完了		
		新たな多糖類事業の立ち上げ			
		安定化DHA・EPA事業の立ち上げ			
コストダウンとグローバルスタンダードへの統一		UNIFUJI	稼動開始		
		グローバルCMS構築 基幹システム順次導入 決算期の統一			
		コーポレートブランド再構築			

2018年上期進捗

アメリカ 新工場建設開始

- 販売数量約**1.5倍**へ、
販売エリアも拡大

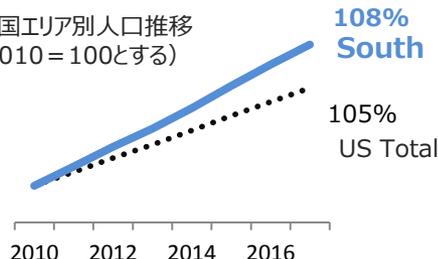
2020年下期稼働開始
早期立ち上げを見込む



- 南部7州 + テキサス州における南方系油脂の約**4割**のシェア獲得を目指す

- US全体の4割を占める南部の人口の拡大が米国の人口増を牽引

米国エリア別人口推移
(2010 = 100とする)



Source: U.S. Census Bureau

課題認識・取組み状況

油脂事業のグローバル競争力向上

① チョコレート用油脂の拡販

- アジア、米州を中心に各エリアで販売好調



- 由来原料の多様化も順調に進行



② サステナブル原料の獲得

- UNIFUJI稼働開始
販売先との契約交渉も進行



2018年上期進捗

オーストラリア IFS社 (※1) 全株式取得



- ・従業員 43名
- ・業務用チョコレートの開発・製造・販売
- ・10月よりPL連結開始

・サステナブルパーム油シナジー
・他の製品群の輸出エリア拡大

・チョコレート機能向上のための油脂技術の導入



オーストラリア市場

- ・健康意識、環境配慮先進国 (サステナブル認証取得難易度高い)
- ・業務用チョコレート市場 アジア・オセアニア諸国域内 第4位
- ・自国産原料使用比率の義務付け法令開始

課題認識・取組み状況

収益性向上、グループでの事業規模拡大

日本：量く利益を追求した事業戦略

- ・強みのある高付加価値品へ注力



カラー、成型チョコレートなど

ブラジル：製品ポートフォリオ改善

- ・強みを生かした新製品投入などにより製品ポートフォリオを改善
- ・新工場建設は検討中

アジア：エリアシナジーの発揮

製造拠点数	東南アジア・オセアニア	中国
油脂	6	1
チョコレート	4	1

キャパシティ、品種をグループ間で共有

油脂技術、サステナブル油脂調達シナジー

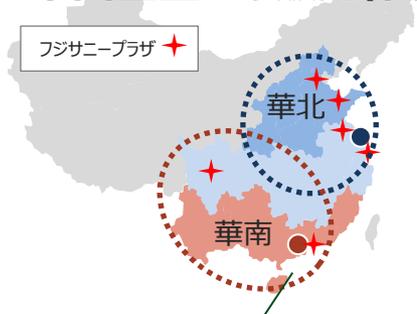
2018年上期進捗

中国市場の成長を上回り伸張、シェア拡大



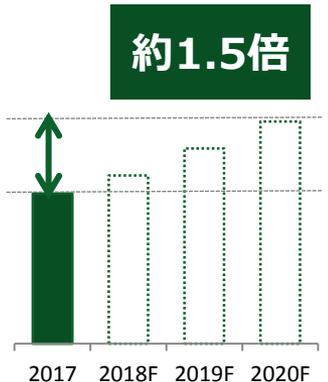
中国国内シェア
フィリング 1位
マーガリン 2位

新工場 7月稼働開始 中国全土への販売体制構築 一歩前進



- ・マーガリン・カスタードを生産
- ・年内に単月黒字化を実現
- ・投資金額：約4億元

中国製菓・製パン事業
利益計画



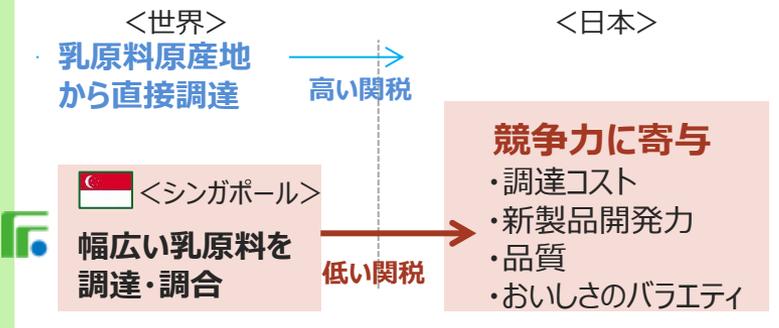
課題認識・取組み状況

日本：再構築を推進中

- ・販売体制の改革
- ・コーディネートビジネス
- ・USS製法をはじめ、植物性素材によって差別化された製品群

東南アジア：域内拡販による収益向上

調製品事業は製菓・製パン素材事業の強み



収益性の安定した製品ポートフォリオ構築を目指し、クリームの商品向け拡販に注力

- ・2017年に増設倉庫が稼働開始
- ・ボトルネック解消し、好調に推移

大豆：世界で植物性たん白の価値を生かした事業を推進

2018年上期進捗

大豆、植物性タンパクの市場価値向上進む

大豆たん白素材好調

- ・プロテイン飲料向けや菓子用途も拡大

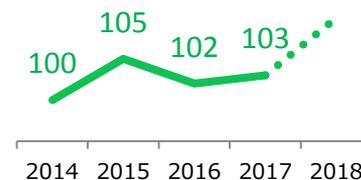


イメージ

- ・粒状大豆たん白生産能力増強を検討へ



粒状大豆たん白販売数量110



水溶性大豆多糖類

- ・日本、中国での生産能力増強完了
- ・日本での拡販再開好調を維持

FY2018上期
対前年販売数量

113%

課題認識・取組み状況

日本・中国：「選択」と集中の継続

引き続き、再構築を進めている

- ・原豆乳
- ・大豆たん白食品事業再構築
- ・中国大豆事業拠点再編

米州・欧州：エリア統括機能を付与

米州：FSI(※1)

欧州：FEA(※2)



多糖類事業の可能性追求、その他新規事業立ち上げを推進。

植物性チーズの
テスト販売開始将来的なアフリカ事業へ向
けリサーチ国際協力機構（JICA）
「途上国の課題解決型ビジネス
（SDGsビジネス）調査」に採択

Appendix

不二製油グループのESG経営

不二製油グループのESG経営 (Conscientious Management)

重点領域

戦略

ソリューション

食の創造による
ソリューション

食の安全・安心・品質

サステナブル調達

環境

人づくり

健康経営

リスクマネジメント

中期
経営
計画

Plant -
Based
Food
Solutions

持続的な
不二製油
グループの
成長

持続可能な
社会の実現

持続可能な
社会を実現
するための
社会課題

人権

環境

etc.

グループ憲法（人のために働く）



Towards a Further Leap 2020 (2017-2020)

次の飛躍に向けた基盤作りを完遂する4年間

基本戦略

成長戦略
エリア戦略

経営
基盤
強化

財務
戦略

収益
構造
改革

基本方針

- ①コアコンピタンスの強化
- ②大豆事業の成長
- ③機能性高付加価値事業の展開
- ④コストダウンとグローバルスタンダードへの統一

経営目標 (2020年度)

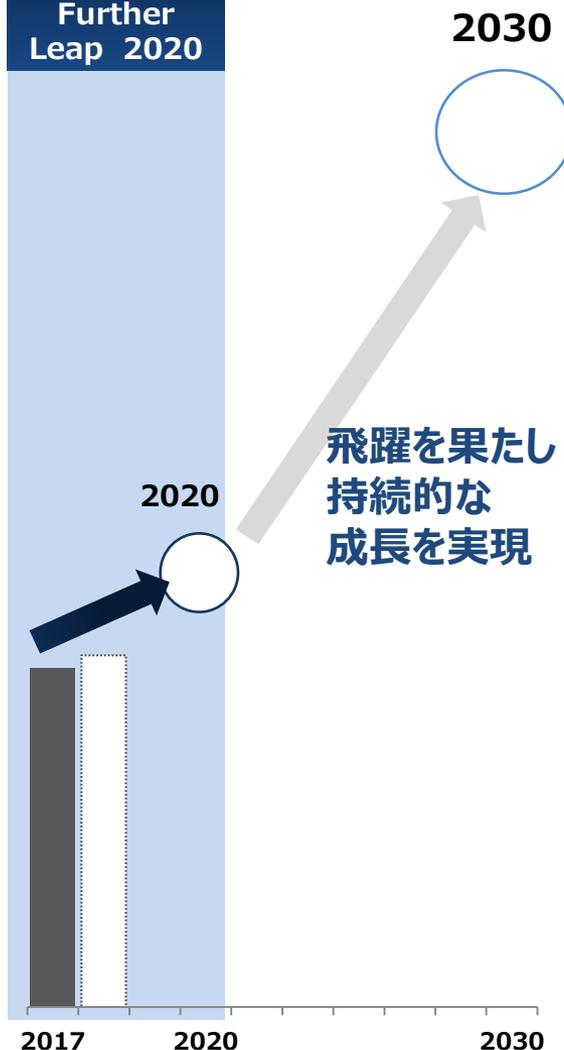
(2017年度実績)

ROE	10 %	8.8 %
EPS	CAGR 8% 以上	13.5 %
営業利益成長率	CAGR 6% 以上	4.0 %
株主還元	配当性向 30-40%	30.0 %

キャッシュフロー指標

営業キャッシュフロー	4か年営業CF 累計1,000億円	282 億円
CCC	10日間の短縮	7日 短縮
設備投資	4か年 600-700億円	147 億円
M&A	500億円の資金を確保	—

Towards a Further Leap 2020



Towards a Further Leap 2020 (2017-2020) 進捗

基本方針

コアコンピタンスの強化

強みを発揮できる市場、製品群を確実に伸ばす

項目	エリア	2018施策	2018施策進捗
油脂事業の拡大	米国	・製造・販売の新拠点の 2020年の稼働を目指し進める	・新拠点建設開始 ・エリア統括会社設立
チョコレート事業 の拡大	日本	・高付加価値品へのシフト推進	・高付加価値品へのシフト進む
	東南アジア	・中東・オセアニア含む広域での拡販	・オーストラリアIFS社株式を取得 ・UNIFUJI稼働
	中国	・パン市場向けの拡販	・パン市場向けの拡販に加え、 チョコレート販売も好調
	ブラジル	・収益性の維持向上、新製品投入 による数量回復	・価格政策で収益性を維持 製品ポートフォリオの見直し
	欧州	・サステナブル原料を使用した製品拡販	・チョコレート販売好調
	M&A	・探索を継続	・探索を継続
アジアの拡販	東南アジア	・国別ターゲティングで製菓4品の拡販	・ボトルネック解消し、東南アジア各国 へのクリームで拡販進む
	中国	・新工場2018年下期操業予定 投資額：約4億元(約50億円)	・フジサニープラザ済南を設立 ・新工場7月稼働開始

Towards a Further Leap 2020 (2017-2020) 進捗

基本方針

大豆事業の成長

- ・地球と人の健康を追求
- ・時代に合った製品の提供（フレキシタリアン）

項目	2018施策	2018施策進捗
構造改革最終ステージ	<ul style="list-style-type: none"> ・中国事業再構築 ・大豆たん白食品事業再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国事業拠点再構築進行中 ・大豆たん白食品事業再構築検討中
プラントプロテイン市場への展開	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆たん白素材生産効率化と健康栄養市場への展開強化 ・フレキシタリアン市場への展開大豆ミート・ソイチーズの国内外展開 ・USS収益貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・粒状大豆たん白能力増を検討海外での事業展開も検討開始 ・米国エリア統括会社設立、植物性チーズのサンプルワークすすめる

基本方針

機能性高付加価値製品群の展開

- ・多糖類事業、安定化DHA/EPAの事業展開
- ・栄養・健康分野への進出
- ・グループ収益の安定化を図る

項目	2018施策	2018施策進捗
安定化DHA・EPA事業	<ul style="list-style-type: none"> ・脳機能に関するエビデンス取得 ・海外展開に向けたサンプル開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・2019下期本格発売に向け進める
多糖類事業	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶性大豆多糖類生産能力アップ、日本・中国で拡販 ・新たな多糖類のワーク進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・水溶性大豆多糖類能力増強完了 ・欧州エリア統括会社設立

Towards a Further Leap 2020 (2017-2020) 進捗

基本方針

コストダウンとグローバルスタンダードへの統一

- ・グループ全社の生産性効率を高める組織編成
- ・競争力向上
- ・グローバルでの基幹システムの統一、決算期の統一

項目	2018施策	2018施策進捗
経営基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル調達 UNIFUJI稼働予定(下期) グリーンバンスメカニズム導入 カカオプログラムの開始 ・環境ビジョン2030策定 ・ESG委員会 委員会が核となり、重点テーマを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル調達 UNIFUJI稼働 グリーンバンスメカニズム運用開始 責任あるカカオ豆調達方針公表 ・CQO設置 ・環境ビジョン2030策定 ・生産性推進グループ グループ各社の監査を再開
財務戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・CCC(※1) 方針の浸透、各部門の施策の進行 ・グローバルCMS(※2) 中国・米国での運用開始 ・グローバル資金管理 各エリアでのグループ金融制度再構築 ・基幹システムの統一 中国・米国にて運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・CCC 在庫削減などによる改善進展 ・グローバルCMS 中国・米国にて運用を開始 ・設備投資 年内に新基準による運用開始 ・基幹システムの統一 米国・中国新工場に導入・ 日本での構築開始
収益構造改革	<ul style="list-style-type: none"> ・VGP(※3)活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・VGP活用

PICK UP : グローバルスタンダードへの統一 サステナブル調達



「責任あるパーム油調達方針」(2016.3~)に基づき、
環境問題・人権問題のないパーム油の調達を目指す

・サプライチェーン改善活動

: 搾油工場までのトレーサビリティ100%を目指す

・グリーンバンスメカニズム(※1)運用開始

: 5月に構築公表後、5件のグリーンバンスを受け付け
対応中。そのうち、問題を指摘されたサプライヤーの
一つからの取引は既に停止を実行

・UNIFUJI稼働開始

: 2017年11月に設立を発表した、調達から生産までのプロセスで、徹底的に
地球環境と労働者に配慮しパーム油の分別事業を実施する合併会社が稼働を開始

搾油工場までのトレーサビリティ進捗



2018年8月 「責任あるカカオ豆調達方針」を公表

アソシエイト

1. 農家の生活環境改善

農業指導 (適切な栽培方法、土壌管理、適切な施肥・農薬散布等) と単収の向上、
小口融資 (無利子・低利) 等を通じ、カカオ豆生産農家の生活環境改善を目指します。

2. 当社サプライチェーン上の児童労働の撲滅

児童労働の実態把握と是正、農家への教育活動、児童が教育を受けられる環境の整備等
を通じ、サプライチェーン上の児童労働0を目指します。

3. 森林破壊の防止と森林の保全

森林破壊の実態把握と是正、農家への教育や支援等を通じ、サプライチェーン上の
森林破壊の防止と森林の保全を目指します。

・エクアドル小規模農家の支援開始

・エクアドルサプライヤーと共同してカカオ豆の発酵研究に着手、
カカオ原料調達の競争力向上へ1歩前進

(※1) グリーンバンスメカニズム: ステークホルダーから当社グループに提議された問題 (グリーンバンス) について「責任あるパーム油調達方針」に
基づき対応し、サプライチェーンの透明性向上と、問題発生時の改善・是正・対応の強化を果たすためのメカニズム

PICK UP : グローバルスタンダードへの統一

前提	項目	2018年度上期進捗
<p>・グローバルな事業拡大 グループ全体での 労働安全・食の安全・ 安心・品質・環境への 取り組みの水準維持 向上が不可欠</p>	<p>労働安全</p>	<p>重篤災害（※1）ゼロを目指した活動 重篤災害発生件数はゼロ。 従業員1,000人あたりの休業災害件数（休業4日以上）は、 対前年前期で横ばい（1.9件/1,000人）で推移。</p>
	<p>食の安全・ 安心・品質</p>	<p>海外品質保証体制構築 品質保証規程及び細則の制定 FSSC/ISO22000（※2）取得 日本で4工場追加取得</p> <div data-bbox="1477 564 1806 678" style="background-color: #006633; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>日本既存工場 52% 達成</p> </div>
<p>・2018年4月 CQO新設 (Chief Quality Officer)</p>	<p>環境</p>	<p>新環境ビジョン2030策定開始 ・SBT認定(※3) コミットメントレター を提出済 (取得目標 2020年5月) ・水、廃棄物の削減目標を策定中</p> <div data-bbox="1477 763 1806 906" style="background-color: #006633; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>2030年 CO2排出量 24% 削減 基準年：2016年度</p> </div>
	<p>生産性推進</p>	<p>グループ各社のレベルに応じたPDCAを実行</p> <p>・日本の技術者 によるサポートを 進行</p> <div data-bbox="1149 1035 1825 1278"> <p>各社で実行 改善要請 レベルの確認・改善箇所の抽出</p> <p>チェックシート CQO新設に伴い 監査チェックシートを ブラッシュアップ 9月から監査再開</p> </div>



CQO
門田 隆司

→取り組みを加速

(※1) 重篤災害：死亡事故、四肢等に後遺症の残る事故、長期入院事故 (※2) FSSC/ISO22000：食品安全マネジメントシステムの国際標準規格 (※3) SBT：Science Based Targets

トピックス

2018年5月

「グリーンバンスメカニズム（苦情処理メカニズム）」構築

2018年6月

不二製油（張家港）フジサニープラザ済南を設立

2018年7月

富士通と不二製油、情報システムに関する業務提携

茨城大学と不二製油グループ本社が大学から企業へのクロスアポイントメント制度を実施

オーストラリアの業務用チョコレート製造企業買収

「サステナビリティレポート2018」を公開

ハラルド社の出資持分変更

フジ ヨーロッパ アフリカ 統括会社設立

2018年8月

「責任あるカカオ豆調達方針」を策定

初の統合報告書「不二製油グループ 統合報告書2018」発行

2018年10月

日本証券アナリスト協会「2018年度 ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定

「フードバレー財団」に加盟

 **不二製油グループ本社株式会社**